

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	基山町立基山中学校
1 前年度 評価結果の概要	・年度当初に立てた重点取組内容は、成果指標に照らし合わせると概ね達成できたが、2回目の保護者評価が若干下がった。今年度も、全職員であらゆる教育活動において共通理解を図りより良い学校づくりに努めていく。 ・本校の課題である特別支援教育と不登校支援については、チームで対応し、外部との連携も進んだ。対人関係や社会生活を営んで行くためのスキルを養う必要性があるため、今年度は定期的にソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、生徒にとって安心安全で楽しい学校生活を送るための一助としていく。 ・学力向上については、一定の成果を上げているが課題もある。校内研究の充実を図り、さらに授業改善を推し進め、生徒自身が自分の成長と学ぶ楽しさを時間でできるような取組を行っていく。
2 学校教育目標	「きたえ やりぬき まなびあう」 ～気づき、考え、行動する生徒の育成を目指して～ 自分がやるべきことに気づき、課題解決へ向けて試行錯誤を繰り返し、行動に移すことで、現代社会を生き抜く力を養う。
3 本年度の重点目標	①「基本的生活習慣」の定着 ②「豊かな心」の育成 ③「生徒(会)活動」の充実 ④「確かな学力」の定着 ⑤「組織力」の強化 ・落ち着いた学校生活 ・思いやりのある風土づくり ・活力に満ちた活動 ・考える力を身に付け、自ら学び続ける生徒の育成 ・学年の枠を超えたつながり、四輪駆動

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○ゴールを意識し、生徒の主体的な学びを促す授業改善を目指す。	○4月県調査の正答率の対県比が全教科で1.00を上回る。 ○学習アンケートで、「授業を通して自分の力が伸びていると感じる」と解答する生徒の割合80%以上を目指す。	・ラーニング・マウンテンを活用し、ゴールを意識した単元づくりとまとめに重点をおいた授業改善を行う。	B	・全国、県調査においては、全教科で1.00を上回ることができた。 ・家庭学習の時間や課題の出し方や具体的な手立てについてはまだまだ課題が残る。	A	・テスト計画の取組の成果で徐々に家庭学習の内容や学習時間が向上している。成果指標も83%と目標を達成できた。	A	・テスト計画の取組は良いものになっている。 次年度も継続してほしい。習得に時間のかかる生徒へのフォローも引き続きお願いしたい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの「特別の教科 道徳」に関する質問において、その取組や成果に肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	・人権講演会(人権集会)や命の大切さを学ぶ機会を設ける。 ・学年全体で道徳の授業に取り組み、その充実を図る。	A	・人権週間では生徒による実行委員会を中心に、充実した取組ができた。 ・ローテーションとTTを取り入れながら学年全体で道徳の授業に取り組むことができた。	A	・成果指標は概ね達成できた。心の教育には学校や学年全体で取り組む態勢ができていることも成果の一つである。	A	・新しく始めたソーシャルスキルトレーニングなど取組が素晴らしい。人と人の繋がりの大切さや思いやりの心をもてる指導を続けてほしい。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートのいじめを許さない雰囲気作りや教師の指導に関する質問において、肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	・生活アンケートの確実な実施、内容の把握、早期対応、早期指導を行う。 ・生徒指導体制や教育相談体制を充実させ、一人一人に寄り添った支援に取り組む。	A	・アンケートからはいじめを許さない雰囲気作りが浸透していることがうかがえた。今後も、生徒指導や教育相談体制を充実させ、早期発見・早期対応に努めていく。	A	・成果指標は達成できたが、日々の生活の中で起きる些細な問題行動への対応に追われる時期もあった。指導体制は確立しているので、一層の共通認識と共通実践に努めていく。	A	・全体的にいじめを許さない雰囲気作りは学校や生徒を見れば分かる。早期発見・早期対応に努めていただいており、心強く感じる。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・学校行事や体験活動において、見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・教育活動全体で生徒指導の機能を生かし、生徒の良さを共有できる取組を実践する。	A	・よいところを認められていると感じている生徒は91%だった。夢や目標をもっていると考えた生徒は、昨年より増え90%だった。全国調査でもポイントが上がっているため、今後も互いの良さを頑張りを認め合ったり、自己肯定感や自己有用感を高める取組を継続していく。	A	・成果指標は達成できた。特に保護者から学校の対応に肯定的な回答を得られた。(R5/2月:83%⇒R6/2月:91%) ・ソーシャルスキルトレーニングの成果も少しずつ表れてきている。	A	・大人がなかなか夢や希望をもてない中で、生徒達が夢や目標をもっていることが素晴らしい。また、生徒が学校生活を楽しくしていることも、先生方の声かけなどのお陰であろうと思われる。今後も継続してほしい。
	◎本校教育目標「きたえ やりぬき まなびあう」を念頭に置いた志を高める教育の実践を行う。	◎学校評価アンケートの「学校行事や体験活動を通して、自分が成長していると感じるか」という質問に対して、肯定的な回答を行った生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	・学習や学校行事、部活動等で生徒が主体的に活躍できる場を多く設定し、活動の振り返りを行う場面を設定する。 ・生徒が学ぶ必要性や夢や目標を設定するための時間を確保する。	B	・自分の成長を感じている生徒は91%だった。どの行事も生徒が運営に携わり、活躍の場を設けることができています。 ・学校教育目標や「すみそあじ」を意識した行動についてはまだ課題が残る。	A	・成果指標は達成できた。様々な学校行事や委員会活動を通して活躍し、自己の成長を実感できている。 ・「すみそあじ」についても生徒会活動を通して生活に落とし込む活動ができてきた。	A	・「すみそあじ」は、大人になっても大切で必要な要素を含んでいる。 ・今後もあきらめず、やり抜く心と体をつくれる時間の確保をお願いしたい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力を育成する。	●健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上を目指す。 ○学校評価アンケートで「早寝早起き朝ごはん」に関する質問で、これを実践している生徒、実践を生徒にさせている保護者の肯定的な回答の割合が90%以上を目指す。	・学校評価アンケートに食に関する意識調査を実施する。 ・学校給食を教材に、バランスのとれた、健康づくりに特化したメニューを考案させる。 ・学習成果と生活リズムの関係について学級指導を行う。 ・「食育便り」を発行する。	B	・アンケートの結果は保護者87%、生徒94%と高かったが、「朝食を毎日食べている」と答えた生徒は、昨年の87.6%から75.5%に減少し、4人に1人は朝食を食べずに登校していることがわかった。栄養教諭の専門性を生かした食育を推進し、食に関する意識を高めていく必要がある。	B	・成果指標は達成できたが、6月:94%、2月:90%と減少した。残業も若干増えており、より一層、食に関する意識を高める教育が必要である。 ・朝食を食べずに登校している生徒が増加傾向にあることから、家庭への啓発もおこなっていききたい。	B	・給食がおいしいので、生徒も毎日の給食の時間を楽しみにしていると同っている。 ・朝食を食べずに登校している生徒が増えているようだが、朝食を食べるためにも早寝早起きの習慣をつけてほしい。成長期の生徒たちだからこそ、3食しっかりした食事をとることの大切さや生活習慣を見直す意味を、その背景まで掘り下げて考えさせてほしい。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・県と町の部活動ガイドラインを遵守する。 ・行事等の精選を行い、ゆとりのもてる時間の確保をする。 ・部活動終了時刻を見直し、時間外在校時間の削減につなげる。	B	・勤務時間を意識したタイムマネジメントやワークライフバランスの意識を向上し、実践することは難しかった。ただ、どうにかしなければならないという意識は徐々に高まってきている。	B	・退勤時間を意識したタイムマネジメントやワークライフバランスの向上については6月60%、2月:68%と徐々に高まっている。 ・時間外在校時間の大幅な削減には至らなかったが、教育課程を見直すことで、日々のゆとりにつなげていきたい。そのためには職員で議論する場を設けるなどボトムアップで課題解決に努めたい。	B	・校時の見直しも必要なのではないか。先生方にとって削りたくない時間もあるかもしれないが、限られた時間の中で本当に必要なことを精選し、やることを絞りこんでいく時期に来ているのでは。そのことで業務を効率化させ、時間外在校時間を適正にしていってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働き方改革を推進する。	○学校評価アンケートで、「学年・校務分掌において、自分の役割を自覚し、他の職員と連携を図っている」にに対し、肯定的な回答をする職員の割合を90%以上を目指す。	・部活動終了時刻を見直し、定時退勤日の確実に行う。 ・校務分掌を平均化し、チーム意識を醸成しながら計画的・組織的な業務遂行に努める。 ・教職員のメンタルヘルスチェックを実施し、管理職による細やかな声かけを行う。	B	・今年度から部活動終了時刻を見直し、少しずつゆとりのもてる時間の確保を目指しているが、時間外在校時間の削減には、さらに踏み込んだ対策が必要である。 ・学年及び学校全体がチームであるという意識が浸透し、協力して業務遂行できている。	B	・成果指標は達成することができた。学年や校務分掌におけるチームワークや協力態勢は良好で、進んで業務遂行に努めようとする雰囲気がある。 ・来年度に向けて校時を見直し、下校時間を弾力的に早くすることで、働き方改革を進めて行きたい。	B	・働き方改革が進まない背景に何があるのか、その原因を明らかにして、対策を講じていく必要があるのではないかと。 ・部活動の地域移行が進み、次年度は少しでも先生方の負担減につながってほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○生徒の特性を理解するための職員の研修を深める。	○学校評価アンケートで「特別支援教育の重要性を理解し、インクルーシブ教育の実現に向けて取り組んでいる」と回答する職員を90%以上にする。	A	・休業中の研修は有意義で、特別支援教育を自分事として真剣に学び、日々の教育活動や生徒との関わりに生かしていこうという意識が高まった。	A	・成果指標は達成することができた。学年一丸となって日々、一人一人の生徒に寄り添った関わりをもつことで、目標とする進路や生徒の特性に応じた進学につなげることができた。	A	・特別支援学級の担任以外の先生とも生徒の情報が共有されており、全体での支援が可能になっている。難しい課題に取り組んでいただいている。	
○不登校支援	○家庭との信頼関係を築くために、綿密に連絡を取り合う。 ○専門機関との相談体制を計画に行う。	○学校評価アンケートで「いじめや不登校など配慮を要する生徒に対して、丁寧に対応している」と回答する職員を90%以上にする。	A	・教育相談部会でしっかりと情報交換を行い、全職員で共通理解を図りながら、個に応じたきめ細やかな対応を心がけることができている。	A	・通級教室や別室登校など、様々なかわりの中で、完全不登校だった生徒が徐々に登校できるようになるなど、小さな変化がみられてきた。 ・96%の保護者が学校は連絡相談に真摯に対応できていると回答しており、信頼関係も向上している。	A	・不登校のゴールを登校できるようになることにすると難しくなるが、あらゆるバージョンを考えて個別に支援を考えていただいていると感じる。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・年度当初に立てた重点取組内容は、概ね達成できた。昨年度、若干下がった保護者評価が向上し、全職員の生徒一人一人に寄り添った対応が保護者からの信頼につながっていると思われる。 ・本校の課題である特別支援教育と不登校支援については、通級が開設されたことで困り感をもつ生徒へきめ細かな配慮や支援が可能となり、特別支援や別室との連携が深まった。そのことで完全不登校だった生徒が少しずつ登校できるようになるなど良い変化も見られた。また、ソーシャルスキルトレーニングの成果も徐々に表れてきた。 ・これを次年度へしっかりとつなぎ、個に応じた指導・支援を充実させていく。 ・学力向上については一定の成果をあげることができた。校内研究の充実はもちろんだが、日々の落ち着いた学校生活と、学習環境作りに努めていく。また、学ぶ楽しさや喜びを実感できるような授業改善に取り組んでいく。
----------------	--